

台湾における戦前期の製糖工場と社宅街の概要

-戦前期日本における製糖業を支えるネットワークの形成過程と特質に関する研究 その3-

正会員○辻原万規彦^{*1} 同 今村仁美^{*2}
同 角 哲^{*3}

9. 建築歴史・意匠-2. 日本近代建築史 建築歴史・意匠

台湾製糖, 明治製糖, 塩水港製糖, 大日本製糖, 現地調査

1. はじめに

筆者らは、製糖業に関わる建築活動からみた戦前期日本の影響下にあった地域の相互比較に関する研究を進め、次いで製糖業におけるネットワーク形成の視点から都市と製糖業の関係を明らかにすることを試みている¹⁾。製糖業は、戦前期には「日本を代表する主力産業の一つであり、日本企業のアジア進出のプロトタイプともいえる海外展開を行った産業」²⁾と言われるように、重要な産業の一つである。中でも台湾には数多くの工場が建設され、研究対象として取り上げる意味が非常に大きい。本稿では、戦前期の台湾に建設された製糖工場と社宅街を対象とした、2009年9月、2010年9月、2011年9月、2012年3月、2012年9月の合計5回に亘る現地調査の結果の概要を報告する。

台湾の製糖工場と社宅街に関しては、既に日本国内では郭³⁾や小野⁴⁾らの研究などがあるが、全ての工場を対象として工場と社宅街の全容を明らかにできていない。また、台湾でも製糖工場と社宅街を取り上げた建築や都市計画の分野の研究⁵⁾がみられるが、代表的な事例のみを取り上げることが多い。特に近年は、特定の工場と社宅街を対象に、その保存や活用に焦点を当てる研究が多い⁶⁾。なお、発行部数が限られており、入手が難しいが、製糖工場に関連する建築物の保存や活用のための調査報告書⁷⁾もみられる。また、原料の運搬のために、製糖工場周辺に張り巡らされた専用鉄道については、特に台湾の鉄道愛好家らによって数多くの情報が発信されている⁸⁾。

一方、経営史学の分野での研究も多く、国内では、久保の研究⁹⁾などがあるが、実際にどのような工場や社宅街が建設されたかについては扱っていない。

なお、本稿では、当時の用語や呼称をそのまま用い、引用文などは原則として現代仮名遣いに改め、繁体字も新字体に変換している。

2. 製糖業に関する史料の所蔵状況

昭和10年代後半の台湾における製糖会社は、台湾製糖、明治製糖、塩水港製糖、大日本製糖の4大製糖会社にほぼ集約されていた。第二次世界大戦後にはこれらの会社が所有する資産は全て接収されて一つの会社にまとめられ、民国35(1946)年に台湾糖業公司(以下、台糖公司)が成立した。その際、図面類なども全て接収された¹⁰⁾が、現段階では、これらの一次史料を一ヶ所で、もしくはまとまって閲覧することは難しい。ここでは、これまでの現地調査などで確認できた史料群について、その概要を紹介する。

国内では、糖業協会が所蔵する史料が充実しており、その多くはマイクロフィルムで公開されているほか、糖業協会でも、事前に申し込めば自由に閲覧できる¹¹⁾。ここでは特に、各社の営業報告などが充実している。

台湾の図書館などでは、国立中央図書館台湾分館(新北市)の6階にある台湾学研究中心に、台湾に関する各種書籍が所蔵されている。そのうち「総督府旧籍」のコーナーの「糖業」の棚などには、製糖会社の社業概況、工場一覧、営業報告、職員録や社内誌をはじめ、日本国内では閲覧できないと考えられる史料が数多く所蔵されている。しかし、建築物に関する図面などは、多くは確認できていない。

次に、国史館台湾文献館(南投市)では、「台湾総督府檔案」中の「糖務局公文類纂」や「台湾総督府専売局檔案」などの中に、製糖会社から台湾総督府への申請や許認可に関する書類が数多く所蔵されている。それらの中には図面も挟み込まれているが、工場全体の配置図や工場内の機械配置図などが多く、建築物そのものに関する図面はほとんど確認できていない。なお、これらの書類は基本的に全てデジタル化されている。

さらに、中央研究院台湾史研究所檔案館(台北市)でも多くの所蔵史料がデジタル化されていることもあ

り、国史館台湾文献館と重複する書類もあるようであるが、製糖業に関する幾つかの書類が閲覧できる。しかし、主に旧明治製糖の蕭壠工場（戦後、佳里糖廠）の配置図などが多く、他の工場の史料についてはほとんど確認できていない。

一方、台糖公司の各糖廠（製糖工場）のうち、現在でも残って（3. を参照）、観光糖廠などに姿を変えている糖廠の中には、博物館や文物館を併設しているところが多い。これらの博物館や文物館が所蔵している史料には、場所によって大きな差があり、かつ全てを確認できた訳ではないが、例えば、善糖文物館（台南市善化区）では、台南地区のいくつかの工場の配置図や工場内の様々な機械の図面などが所蔵されている。これらの史料はデジタルカメラで撮影することができた。また、花糖文物館（花蓮県光復郷）には戦前期の土地台帳なども所蔵されているようであるが、詳細は把握できていない。さらに、旧明治製糖の本社が置かれていた総爺工場（戦後、麻豆糖廠）に所蔵されていた史料群については、筆者は未見ながら、また戦前期のものは多くないものの、整理されて目録が作成されている¹²⁾。なお、台糖公司総公司（台南市東区）に隣接する台糖研究所の史料室や図書室には、戦前期の台湾総督府糖業試験場（後、糖業研究所）に関する様々な史料が所蔵されており、財産目録カードや建築物に関する図面も所蔵されていた。しかし、民間の製糖会社の工場や社宅街に関する史料は確認できていない。

また、橋仔頭文史協会（高雄市橋頭区）などの民間の団体が各種史料を所蔵していたり、文献やパンフレットなどを発行したりしており、参考にはなるが、上述の史料などに比べると、質、量ともに多くはない。さらに、一般に市販されている写真集なども含めた文献類についてもできるだけ収集するよう務めている。

このように戦前期台湾における製糖業に関する史料については、現段階では、建築物や各種構造物に関する図面を数多く閲覧できているとは言い難く、特に、建設時のものは希少である。図面などはそれぞれの工場で管理していたために、工場の閉鎖と共に処分してしまい、散逸してしまった可能性が高い。今後も史料の発掘と収集に力を注ぐ必要がある。

3. 台湾における製糖工場と社宅街の現状

表 1 に、戦前期に建設された製糖工場の一覧を示す。

あわせて工場と社宅街を対象とした現地調査日と調査日時点でのおおよその状況（「工場」と「社宅街」欄）も示す。表 1 の工場の名称と経歴は、台湾糖業公司のホームページ¹³⁾ と久保の論文¹⁴⁾ を参考にした。

名称のうち【】は戦後に名称が変更になった場合の名称であり、【】がない場合は変更がない場合、もしくは戦後直後までに工場が閉鎖された場合である。戦前の名称も時代と共に変化し、また「○○製糖所」や「○○工場」などの呼び名も異なるが、昭和 10 年代後半の名称を示した。なお、名称に※がついている工場は、現在でも観光糖廠などとして見学が可能な工場である。

「建設年」の「←」は合併された年を表す。経歴のうち、会社名の「製糖」などは省略し、() 内は当初の工場名を示している。「本社」は各社が本社をおいた工場を指すが、大日本製糖の場合は、本社は東京で、台湾には台湾全体を統括する台湾「支社」がおかれた。また、台湾製糖の場合は、橋仔頭工場の敷地内に本社を置いた後、阿緱製糖所の敷地内に本社移転させるまでの間、10 年間ほどは高雄市内に本社を置いた。なお、工場と社宅街の概況のうち、工場の場合は「残存」とあっても、戦前期の建物ではない場合もある。

現地調査の際には、各種文献に掲載されている配置図、各所で所蔵されている配置図、工場内に掲げられている配置図、民国 50~60（おおよそ 1960~70）年代の空中写真ならびに Google map などを参考にした。基本的に敷地内と考えられる範囲をくまなく踏査し、工場や社宅街における建築物の残存状況を記録した。なお、国立国会図書館所蔵の外邦図についても収集しており、今後、調査結果と比較検討する予定である。

現地調査の結果、ほぼ全ての工場と社宅街の位置と範囲を同定できた。これまでは、特に戦後の早い段階で操業を停止した工場については、台湾側でも明確に把握できていなかったと考えられ、全体の情報を集約できたという意味でも、大きな成果と言えよう。

工場については、稼働中の工場、稼働はしていないが観光糖廠などとして残っている工場、建物が残っていないが跡地は残っている工場、異なる業種の工場に転換された工場、かつての敷地に異なる建物が建てられた工場、などに分かれる。戦時中もしくは戦後直後に閉鎖された工場ほど、稼働当時の様子を止めていない傾向にある。また、製糖が盛んであった南部に下る

表1 戦前期に建設された台湾における製糖工場と社宅街を対象とした現地調査日とその時点での状況

	建設年	名称	経歴	本社所在	現住所	調査日	工場	社宅街
台湾製糖	1902	橋仔頭第一【橋頭】*		本社:台湾(前期)	高雄市橋頭区橋南里	2009.9.25	残存	一部残存, 街区残存
	1908	橋仔頭第二【橋頭】*			-	-	-	-
	1909	後壁林【小港副産加工廠】			高雄市小港区小港里	2011.9.19, 2012.09.17	精糖工場稼働中	ほぼ集合住宅建替, 街区一部残存
	1911	車路墘【仁徳】*			台南市仁徳区成功村	2011.9.22	残存	建物なし, 街区残存
	1921	東港【南州】*			屏東県南州郷溪北村	2010.9.25	残存	一部残存, 街区残存
	1929	湾裡第二【善化】*			-	-	-	-
	1907←	阿緞【屏東】*	1905南昌(南昌)	本社:台湾(後期)	屏東県屏東市義勇里	2010.9.25, 2011.09.20	建物なし, 敷地あり	ほぼ集合住宅建替, 街区残存
	1909←	湾裡第一【善化】*	1906台南(湾裡)		台南市善化区溪美里	2010.9.24, 2011.09.21/25	製糖工場稼働中	建替社宅一部残存, 街区残存
	1912←	三崁店【永康】	1909FSD		台南市永康区三民里	2011.9.23	異業種工場	建物なし, 街区残存
	1916←	台北*	1912台北		台北市万華区大理街	2012.3.24	倉庫のみ残存	ほぼ集合住宅建替
明治製糖	1913←	埔里社【埔里副産廠】	1912埔里社		南投県埔里鎮大城里	2012.9.24	残存	一部残存, 集合住宅建替, 街区残存
	1927←	旗尾【旗山】	1912塩水港←1911高砂		高雄県旗山鎮糖廠里	2011.9.19	残存	建物なし, 街区残存
	1927←	恒春	1927塩水港←1927恒春		屏東県恒春鎮城西里	2012.9.18	建物なし, 敷地あり	ほぼ集合住宅建替, 街区残存
	1941←	山仔頂	1905新興		高雄市大寮区会社里	2012.9.19	建物なし, 敷地一部あり	住宅地, 街区一部残存
	1909	蕭壠【佳里】*	(第一)		台南市佳里区六安里	2011.9.24	一部残存, 敷地あり	一部残存, 集合住宅建替, 街区残存
	1911	蒜頭*	(第二)		嘉義県六脚郷工廠村	2010.9.23	残存	多数残存
	1912	總爺【麻豆】*	(第三)	本社:明治	台南市麻豆区総爺里	2010.9.24	建物なし, 敷地あり	一部残存, 街区残存
	1921	溪湖*			彰化県溪湖鎮大竹里	2010.9.26	残存	一部残存, 街区残存
	1913←	南投	1912中央		南投県南投市三和里	2012.9.22	県政府に	住宅地
	1927←	南靖	1909東洋	本社:東洋	嘉義県水上郷靖和村	2011.9.26	残存	住宅地, 街区残存
塩水港製糖	1927←	烏樹林*	1911東洋		台南市後壁区烏樹里	2011.9.26	一部残存, 敷地あり	一部残存, 街区残存
	1943←	卑南【台東】*	1916台東		台東県台東市光明里	2010.9.25	一部残存, 敷地あり	一部残存, 街区残存
	1905	岸内			台南市塩水区岸内里	2010.9.22	一部残存, 敷地あり	建物なし, 街区残存
	1909	新宮*		本社:塩水港	台南市新宮区興安里	2010.9.22	残存	多数残存
	1912	岸内第二			-	-	-	-
	1921	花蓮・大和【花蓮】*	(馬太鞍)		花蓮県光復郷大進村	2009.9.27/9.28, 2010.9.17	残存	多数残存
	1937	新宮第二*			-	-	-	-
	1914←	花蓮・寿	1914台東拓殖(鯉魚尾)		花蓮県寿豊郷共和村	2011.09.29, 2012.9.27	住宅地	一部残存, 街区残存
	1927←	溪州	1909林本源		彰化県溪州郷溪州村	2012.9.20	建物なし, 敷地あり	建物なし, 街区残存
	1909	虎尾第一*	(台湾第一)	支社:大日本	雲林県虎尾鎮安慶里	2010.9.21	残存	一部残存, 街区残存
大日本製糖	1912	虎尾第二*	(台湾第二)		-	-	残存	一部残存, 街区残存
	1936	龍巖			雲林県褒忠郷田洋村	2012.9.21	建物なし, 敷地は不明	建物なし, 街区一部残存
	1940	竹山			南投県竹山鎮中崎里	2012.9.22	住宅地, 敷地なし	住宅地, 工場など
	1927←	北港	1915東洋←1912北港		雲林県北港鎮光復里	2010.9.20	残存	建替社宅一部残存, 街区残存
	1927←	月眉*	1915東洋←1914北港		台中市后里区月眉里	2010.9.28	残存	一部残存, 街区残存
	1927←	斗六	1914東洋←1912斗六		雲林県斗六市崙峰里	2012.9.21	一部残存, 敷地あり	一部残存, 集合住宅建替, 街区残存
	1927←	烏日	1922東洋		台中市烏日区三和里	2012.9.24	一部残存(異業種), 敷地あり	異業種工場
	1935←	彰化第一	1911新高	本社:新高	彰化県和美鎮糖友里	2011.9.27	住宅地など, 敷地なし	一部残存, 住宅地など, 街区一部残存
	1935←	大林	1913新高(嘉義)		嘉義県大林鎮大糖里	2010.9.23	残存	一部残存, 街区残存
	1935←	彰化第二	1921新高		-	2011.9.27	-	-
三五公司	1940←	玉井	1928昭和←1913台南←1910永興(噍吧●●二重溪)(●は口十年)	本社:台南	台南市玉井区玉井里	2011.9.23	建物なし, 敷地あり	建物なし, 街区残存
	1940←	宜蘭第一	1928昭和←1917台南	本社:昭和	宜蘭県五結郷二結村	2012.9.29	異業種工場	住宅地など, 街区一部残存
	1940←	宜蘭第二(二結)	1928昭和←1920台南		-	-	-	-
	1940←	苗栗	1933昭和←1920新竹		苗栗県苗栗市恭敬里	2012.9.23	地方法院に	建物なし(一部工事中), 街区一部残存
	1940←	沙鹿	1933昭和←1922沙轆(沙轆)		台中市沙鹿区興安里	2012.9.25	異業種工場	集合住宅建替, 一部街区残存
	1941←	台中第一	1911帝国	本社:帝国	台中市東区泉源里	2010.9.28	一部残存, 敷地あり	建物なし, 街区は不明
	1941←	台中第二	1911帝国		-	-	-	-
	1941←	竹南	1916帝国(中港)←1913南日本(中港)		苗栗県竹南鎮新南里	2012.9.23	住宅地など, 敷地なし	住宅地など, 街区一部残存
	1941←	新竹	1916帝国←1915南日本		新竹市東区錦華里	2012.9.28	ショッピングモールに	商業地区, 住宅地
	1941←	潭子	1918帝国(潭仔墘)		台中市潭子区潭秀里	2012.9.25	台中加工出口区に	台中加工出口区に
1941←	坂仔脚	1939帝国		桃園県中壢市興仁里	2012.9.28	異業種工場	大学, 集合住宅建替, 一部街区残存	
1934	源成農場製糖所			彰化県二林鎮復豊里	2012.9.20	農地, 敷地なし	一部残存, 街区残存	

ほど工場の建物が残っている傾向にある。

社宅街についても同様であるが、社宅そのものが残存していない場合でも街区割が残っていることも多い。また、街区割を残しつつも、平屋の社宅ではなく、建て替えられた中高層の集合住宅が建ち並んでいる場所も多い。このような場合は、工場が稼働しておらず、工場働く人が居住していないにもかかわらず、今日でも、住宅ストックを提供し続けている事例と言えよう。また、福利厚生施設である倶楽部などの建物のみが文化財として保護されて残っている場合もある。

4. まとめと今後の課題

本稿では、戦前期の台湾に建設された製糖工場と社宅街を対象に、現地調査の結果の概要を報告した。一連の現地調査で、ほぼ全ての工場と社宅街の位置と範囲を同定できたことは大きな成果である。

一方、残された課題も多い。現段階では、全ての工場と社宅街の復原図を作成できている訳ではない。今後、鋭意作成作業を進め、あわせて現況図も作成したい。これらの作業を通じて、それぞれの工場と社宅街の様相を詳細に検討し、それらの成果を、台湾製糖、明治製糖、塩水港製糖、大日本製糖の各社に分けて提示したい。さらに、既存の、もしくは製糖工場が建設される以前から周辺に存在していた都市や集落との関係を検討し、会社による差異、地域による差異などを明らかにしたい。また、各工場と原料の運搬や製品の輸出・移出港への運搬のネットワーク（専用鉄道）との関係などについてもさらに検討する予定である。

謝辞 現地調査の際には、次の方々のお世話になった。台湾糖業博物館（高雄）行政管理師 謝登尊氏、台糖公司花蓮区処 副經理 林祥禎氏、同 彭仁聖氏、同 李旭原氏、台糖公司雲林区処 蔡婉玉氏、嘉義蔗埕文化園區 温雅惠氏、台糖公司台南区処 副經理（当時）潘武照氏、同 副經理 張森垚氏、善糖文物館 吳子儀氏、同 洪秋林氏、台糖公司屏東区 曾瑞益氏、そのほか各糖廠の皆様、橋仔頭文史協會 執行長 何政億氏、同 常務理事 陳森溪氏、中原大学 堀込憲二先生、台湾科技大学 王惠君先生、片倉佳史/真理氏、国史館台湾分館 陳文添先生、中央研究院台湾史研究所 林玉茹先生、同 人文社会科学研究中心 廖法銘先生、同 鄧光豪氏、台湾師範大学 洪致文先生。また、本稿は平成23～24年度科研費（基盤研究（C））、課題番号23560769）、同（基盤（B））、課題番号23360273）、平成21～22年度科研費（若手研究（B））、

課題番号20760430）、同（基盤研究（C））、課題番号20560598）によった。記して謝意を表す。

注・参考文献・引用文献

- 1) 辻原ほか：製糖業に関わる建築活動からみた戦前期日本の影響下にあった地域の相互比較に関する研究 その1～4、日本建築学会九州支部研究報告、第48～50号、2009～2011。辻原ほか：本稿と同タイトル その1～2、同上、第51～52号、2012～2013。
- 2) 経営史学会編：日本経営史の基礎知識、有斐閣、2004
- 3) 郭中端：台湾糖業社宅群/台湾、花蓮（台湾糖業とその産業都市の発展）、近代日本の郊外住宅地、pp.519-532、鹿島出版会、2000.3
- 4) Ono, K. and Ando, T.: A Study of Urban Morphology of Japanese Colonial Towns in Nan'yo Gunto Part3 Origins of the model Japanese sugar plantation town in Taiwan, Transactions of AIJ, No.612, pp.177-184, 2007.2
- 5) 例えば、陳佩琪：日治時期台湾新式製糖工廠空間之研究、国立成功大学建築研究所碩士（修士）論文、2000。吳旭峰：台湾糖廠空間之形塑與轉化、国立台湾大学建築與城鄉研究所碩士（修士）論文、1991。陳怡妃：日据台湾糖業空間構成初探-從歷史與環境談起、東海大学建築研究所碩士（修士）論文、1996、などがある。
- 6) 例えば、鍾書豪：花蓮糖廠 百年来的花蓮糖業發展史(1899～2002)、東台湾研究会、2009.6。許芳瑜：台湾鄉鎮之空間現代性後果-大林糖廠日常生活之建構與批判、南華大学環境與芸術研究所碩士（修士）論文、2003。などがある。
- 7) 例えば、『台糖公司花蓮区処「日式宿舍再利用研究調査委託服務」』（計画単位：中原大学建築学系、計画主持人：堀込憲二、2008.11）、『高雄県定古蹟 橋仔頭糖廠 原社宅事務所及倶楽部調査研究與修復計画』（受託単位：樹徳科技大学、計画主持人：吳培暉、2005.12）、『台湾糖業公司 高雄県定古蹟 橋頭廠廠長與副廠長日式宿舍 古蹟修復再利用計画』（承弁単位：樹徳科技大学、計画主持：李允斐、2008.4）、『台南県定古蹟「麻豆総爺糖廠」及間置空間委託調査、修復計画、再利用及総体規画報告』（執行単位：成大研究發展基金会、主持人：徐明福、2002.12）など。
- 8) 例えば、鄧志忠ほか：糖鉄客運百年回顧(I)、鉄道情報（台湾）、第189期、pp.21-37、2009.5や各種ホームページなど。
- 9) 例えば、久保文克：植民地企業経営史論 「準国策会社」の実証的研究、日本経済評論社、1997.2など。
- 10) 後述の糖業協会所蔵史料の中に、接収された際のリストがあり、各種図面もその中に含まれている。
- 11) 目録は、下記のホームページからダウンロード可。
(<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~kubofumi/kyoukai.html>) (2012.11 閲覧)。マイクロフィルム版は、『社団法人糖業協会所蔵 植民地期台湾産業・経済関係史料マイクロ版集成』（丸善、1999）。
- 12) 『台南県政府文化局委託研究計画執行報告 台南県麻豆総爺糖廠史料整理及研究』（執行単位：交通大学客家文化学院国際客家研究中心、2007.2）
- 13) 台湾糖業公司 知識園地 製糖工場
(<http://www.taisugar.com.tw/chinese/CP.aspx?s=461&n=10033>) (2012.11 閲覧)
- 14) 久保文克：製糖工場レベルから見た台湾農民との関係 近代製糖業界の再編と甘蔗作農家の家計状況、商學論纂（中央大学）、第48巻、第3/4号、pp.1-105、2007.4

*1：熊本県立大学環境共生学部 准教授・博士（工学）

*2：アトリエ イマージュ

*3：北海道大学大学院工学研究院 助教・博士（工学）

Assoc. Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.

Atelier Image

Assistant Prof., Hokkaido University, Dr. Eng.